

農業構造改善事業の推進
対策については数度に亘り
御報告を申上げ、今後に対する御協力方にについて要請
を申上げて参りましたが、
今般「農業構造改善事業」於
議会設置条例並びに本事業の推進に伴う予算を
議決し、事業推進の基盤が
出来ましたので、此の機会に
今後の推進目標の概要を
御報告申上げ度いと存じます。
年度別推進目標の概要
一、昭和三十九年度
啓蒙普及宣伝及び基礎調
査の取りまとめ
一、昭和四十年度
計画地域の指定、基本計
画作成、実施計画作成
一、昭和四十一年度
実施地区の指定、事業薦
手
一、昭和四十三年度
第一次計画、事業実施
一、昭和四十五年度
第二次計画事業完了
当面の運営に於いては、なるべく早い機会に議会を
構成し、事業推進員の委嘱
を終り、啓蒙普及宣伝の開
催から進めて行く方針であ

◎ 農林漁業經營構造改善資金

(農地等取得資金)

7月1日現在

年 度	借入需要額	件 数	備 考
30	300,000	2	自作農維持創設資金
31	1,680,000	11	自作農維持創設資金
32	1,030,000	7	自作農維持創設資金
33	7,250,000	49	自作農維持創設資金
34	3,190,000	21	自作農維持創設資金
35	3,650,000	21	自作農維持創設資金
36	13,340,000	76	自作農維持創設資金
37	4,770,000	21	自作農維持創設資金
38	12,060,000	31	○農林漁業經營構造改善資金 (農地等取得資金)
39	5,970,000	18	○自作農維持資金 農地等取得資金(第一期分) 認定の分(6月現在)
計	53,240,000	257	

最高貸付限度額、利率、償還期間

区分	貸付限度額	利率(年利)	償還期間
農地等取得資金	個人 法人	80万円	3分5厘 25年(内据置期間) (3年以内)
未墾土取得資金		300万円	
自作農維持資金	個人 法人	30万円 150万円	5分 20年(内据置期間) (3年以内)

農業近代化資金需要額

年 度	借 入 需 要 額	件 数	備 考
37	6,609,000円	15件	
38	23,157,000	59	
39	9,270,000	29	昭和39年度(第一期分)承認の分(6月現在)
計	39,036,000	103	

最高貸付限度額、利率、償還期間

	貸付限度額	利率(年利)	償還期間
近代化資金	個人 230万円	7分5厘 6分5厘	15年以内 12年以内
	法人 1,000万円	5分5厘 5分	10年以内 7年以内 5年以内

農家のページ

年間で一番暑い八月になりました。家にいても外へ出ても暑さはきびしく、海へ山へと人間様は出て行きますが、豚は豚舎といいうサクの中に閉じ込められ、糞尿の中でブツブツうなっています。この糞尿の中でどこへもゆけない豚の真夏の管理は次のこと気につけよう。

一、食欲は衰えがち。エサはいつもも潔潔に、エサはかた練り、給与量は十分くらいで食いつくす量とする。

二、真夏に熱射病その他で母豚が熱を出すと、秋の死産の原因となる。毎日水かけを励行して母豚を暑さから守ること。

三、秋の分娩妊娠後半に入った豚には、遂次エサの量を多くしてゆく。

四、蝶、蚊の防除。
管 理

八月の暑さは、立秋の声をきいてもまだまだ厳しく、日中の照り返しや西日にはことのほか苦しめられ、豚は口を開けてあえいでいます。

朝はなるべく早くエサをところを避けておくようになります。

エサも変化しやすい時期ですから、残りエサのない時に給与し、無機物やビタミンにも不足しないよう、青草類を豊富に給与し

ます。
二月もなかなか過ぎる
野草も繊維が硬くなりま
から、よい草を与えるよ
につとめることが大切
す。

昭和三十九年度の岩手県
水稻品種別作付面積の生
産がこの程まとまつた。
これによると作付面
積は一、三六七ヘクタ
ーで、昨年に引き続き翌昭
和四七年九月へクタ
ーで、全耕地の四〇%を上
っている。二位はコシヒカリ
の一六八、二ヘクタールと
昨年一位の日本海と入
る三位は日本海である。
昨年より減っている
六位のぎんまさりが六
ヘクタール伸びただけで他は
づれも昨年よりも減ってい
る。昨年まで見られなか
った品種で、今年は豊年自
然が一躍一三・八ヘクタ
ーと大きく伸びてること
目につく。

品種別作付面積 (10位まで)

品種	38年度	59年度
コシヒカリ	480	550
白米	150	180
五穀米	150	150
玄米	200	200
その他	200	200

早・中・晚生種別割合

種別	割合
早生	56%
中生	33%
晩生	11%

結果
稲刈が始まるまでに後一ヶ月、干害、水害に悩まされた今年の稻作最後

五六%を占める

